



桜の聖母短期大学
親と子の広場



小さなクラスの

さくらっこだより

火・金曜日

2016年1月号



新年、あけましておめでとうございます。

年末年始は、いかがお過ごしでしたか？ 子ども達は親戚の人にお会いしたり、ご実家にお泊りしたりと、大勢で過ごすことが多かったのではないのでしょうか。次々と声を掛けられて、目を丸くしていたかしら？ 様々な世代の方と触れ合うことは、親にとっても子にとっても良いことですよね。みんなの見守りやかかわりで子どもは豊かに育つんだな〜と、こんな時実感します。子どもにとって親は1番ですが、親だけではなく、祖父母や親戚、地域の方、みんなのやさしさと多様な価値観に触れながら、子ども自身が感じて、考えて、自分の生き方を作り上げていくんだな〜と、最近思います。

親が周囲に甘えることは、子どもにとっても良いことがいっぱい！ 甘え上手に子育てしましょう。人生「お互いさま」の気持ちが大切です。甘えるときは甘えて感謝し、いつか相手がしんどい時には助けてお返しして差し上げるくらいの気持ちでいいのではないのでしょうか。

今年もさくらっこだ、親も子もゆったり楽しく過ごしましょう。

どうぞよろしく願いいたします。

文責 奥田美由紀

●12月の広場より●

白菜クッキング第2弾 “白菜巻きずし”

Yくん、Hちゃん、Tくん、Kくんがご飯と大根の葉を混ぜ、うちわで扇いでくれました。Tくんは、お母さんに抱っこしてもらっています。まだ慣れない場所で、新しいことが始まった時は、当然です。お母さんもしっかり受け止めてあげています。「見る」という時間はとても大切です。自分からやろうとするまで、待ってあげられる大人たちも素敵です。白に緑が混ざり、とてもきれいな色になりました。よだれもたら〜と流れてきます（正直！）。



Hちゃんは、手についたご飯を丁寧にぱくぱく。

続いて、巻き簾に白菜を敷いて、ご飯を乗せて平らにならします。具は、卵焼き、大根・人参の漬物、ツナマヨネーズ。好きなものをたっぷりのせました。が、口に入る量も多いみたい！



Sちゃんはお料理大好きで、家ではお母さんの真似をしたくて、家事がなかなか進まないそうです。だから、お母さんはSちゃんが寝ているうちに進めないと、とても時間が掛かるようになるとのこと。とても頼もしいですね。



Hくんのこのしっかりした顔、素敵です！自信に満ちているように見えますね。食べるの大好き、お料理大好きなHくんは、さくらっこだでのクッキングに慣れていきます。お父さんを信頼している顔にも見えますね。



Kくんもお母さんと一緒にぎゅっと巻きました。
Hちゃんは今日、はじめての参加でしたが、お母さんと取り組んでくれました。

最後に大人が包丁で切り分けてみると、切り口がとてもきれい！



彩りの良い白菜巻きずしが出来上がりました。

今日は、17組の親子が参加してくれました。最後にみんなでいただき、持ち帰った子もいました。



「赤ちゃん見せて！」

Hくんの妹、Cちゃんが来ると「赤ちゃん、見せて」とみんなが集まってきます。小さな子ども達もそーっと覗き込んで、優しく頭を撫でてあげたりします。Hちゃんは、にこにこしながら手を握ってみました。Sちゃんは、お母さんにぴったりくっついて、遠くから赤ちゃんを見ています。お母さんのおなかの中に赤ちゃんがいることを毎日聞いているのです。お母さんの大きなおなかと、目の前に居る赤ちゃんと、これから起こること（出産）がつながっているのかな？ お姉ちゃんになるって、どういうことだろう？ 子どもは、どのように捉えているのでしょうか。

たくさんの人に見つめられたCちゃん、ぱっちり目を開いて、お母さんの顔をじっと見ていました。



学生を診察。診断結果は？

お母さんが渡してくれたおもちゃがきっかけとなり、Kくんのお医者さんごっこが始まりました。狩野先生が「このお姉さん、頭が痛いようです」というと、学生の頭に聴診器を当てたり頭に注射をしたりして「頭は悪くないようです」との診断。ん!? 確かに頭は悪くない・・・



友達の遊びを見て「私もする！」

Yちゃん(1歳11か月)は、のりに興味を持ち、様々な色や形の折り紙を画用紙に貼ろうとしていました。誰でも始めは折り紙の上に糊を載せます。糊に何度か触れて、糊の性質を知っていくと、裏に糊をつけるということが分かってきます。実は、しばらく前からHくんが糊に夢中で、いつも糊を使って遊んでいました。それをYちゃんは見ていたのですね。「何をしているのだろう」「楽しそう」と感じていたのでしょうか。広場では、他の子がしていることを見て学んで、それがきっかけとなって、遊びが広がることよくあります。Yちゃんは、たくさん貼って満足すると、ずっと次の遊びへ移っていきました。(お母さんが撮影に協力してくれました)



今度はSちゃん。Yちゃんがしていることをじっと見ていたので、隣にいた



学生がSちゃんもやりたそうだと感じて、材料を準備してあげました。そして、お母さんに「Sちゃんは何が好きですか」と尋ねると「ちょうちょかな」と教えてくださったそうです。学生がちょうちょを切ってあげると、それに糊をつけて貼っていたようです。

Hくんのお父さん、大人気！

Aくん(2歳7か月)がお母さんとサッカーを始めました。このスペースは、ボール遊びに最適！次にHくんのお父さんの手を引いて「サッカー！」と要求しています。Aくんは、Hくんのお父さんの膝にちょこんと座ったり、甘えたり、大好きなようです。今日は、Hくんのお父さんとAくん、他男の子2人、合わせて男4人でピアノ室に入って、ピアノを弾いたりしていました。子ども達は、Hくんのお父さんが大好きです。広場には、お父さんも積極的に参加してくれると嬉しいですね。



僕も見たいな 僕だって・・・



始めに棚の上のクリスマスツリーに気付いたのはMくん(3歳4か月)でした。そこで、ツリーを棚から下してあげると、Kくん(2歳3か月)がツリーに飛びついてきました。Mくんは一瞬遅れました。Kくんは上から覗き込み、雪がどこから出てくるのか確かめているようです。MくんもKくんも後から来たSちゃん(1歳11か月)もみんな、クリスマスソングをじっと聴き、見つめていました。横で見ているMくんは、Kくんから奪い取ることはありませんでした。

子どもによって性格は様々です。「僕が先だったのに…」と悲しい顔をしていたら「〇〇ちゃんが先だったね。使いたかったね。」と気持ちをくんであげたいものです。この時は「Mくん。Kくんに先に使わせてくれてありがとう」と声を掛けてあげればよかったなと後から反省しました。

子どもが悲しそうにしていたり、怒っているときは「嫌」という気持ちを言葉で代弁し、嫌な時は嫌と言って良いということを伝え、その気持ちに共感することが大切ですね。その上で、どう対処するか一緒に行動してみるのです。人とかかわりの中で嫌な思いをしたり、相手に迷惑を掛けてしまったり、様々

な感情体験をします。叱ることは必要ありません。子どもの気持ちを出させてあげること、そして、それを受け止めてあげること、そして、行動に寄り添ってあげることが大切にしていきたいと思っています。やさしくしてあげれば、やさしい人に育ちます。

子どもが味わっていること

Aくん(2歳7か月)は、クレヨンの箱を手にとると、ひっくり返して全部出します。バラバラとクレヨンが落ちるのが楽しいようです。「いろいろな色が落ちてきたね。きれいだね」などと共感して、一緒に楽しんでみてはいかがでしょうか。何度か試して、飽きてくるとしなくなります。



今、子どもが何に興味を持って、何を試して、何を味わっているのか、大人も一緒に感じ、共感すると、子どもは満足するようです。

自分で選ぶ



Yくん(1歳5か月)は一人で絵本棚の前に行き、何冊も出して落としていました。絵本を落として遊んでいるように見えますが、よく見ると、絵本を選んでいるのです。そのうち1冊を選び、椅子に座っていたお母さんのところに持っていきました。偶然でもなんでもなく、自分で「選んで」読んでと差し出しているのです。後からお母さんに聞いたところ、この絵本は家にもあって、それを探していたようです。子どもは言葉では言いませんが、しっかり考えて行動しています。大人の私たちも、誠実に向き合わなければいけませんね。

クリスマスカードを作りました



ボタンやシールを貼ってクリスマスカードを作りました。Hくん(3歳9か月)は、作るのが大好きで、何枚も作りましたがどの作品も素敵です。様々な素材の性質を感じながら、「こうするとくっつくんだな」「こうすると貼りやすいな」など、体験を通して感じているようです。

一緒にお絵描き

Sちゃん(1歳11か月)とFちゃん(1歳6か月)は隣同士でお絵描き。二人で何か話しながらうなずき合っています。分かり合ってるのかな・・・？「アンパンマン」というので描いてあげると、その上にぐるぐるっと描いています。まるで絵に参加しているようでした。



自分の気持ちを言えたね！



Iくん(3歳4か月)がHくん(2歳2か月)に何度か近づいていき一緒に遊びたそうにしていたのですが、Hくんはその度に他の場所に移動してしまいました。Hくんがホワイトボードに絵を描いているとIくんも来て描こうとしました。そこでHくんは「しないで」と言葉で言いました。大人は「仲良く」ということを1番に言いがちですが、この時は子どもが自己主張できたことを周囲の大人たちが喜んだ場面でした。勿論、Iくんが友達と遊びたかった気持ちも大人が大切に受け止めてあげます。



友達遊びが楽しくなった仲間たち

～心が満たされると譲れるようになるのでは・・・～

MUくん(3歳)が来て、ショベルカーに乗って走り出すと、待ってましたとばかりにARくん(3歳7か月)やMIくん(3歳4か月)、ATくん(2歳7か月)が後ろに続きます。追いかけているのか追いかけているのか、とにかくみんなとても楽しそう！最近、このメンバーでの遊びは大盛り上がりです。どの子も友達と遊ぶ楽しさを感じてきたようです。



何度か乗ったり降りたり繰り返す中、MIくんがショベルカーに乗っていると、MUくんがそれを追いかけてMIくんを引っ張り降ろし、MIくんはドアにぶつかってしまいました。見ていた私たちは、MIくんが心配で駆け寄りましたが、MIくんは一緒に遊ぶ方が楽しいようで、泣かずにめげずに仲間を追いかけていきました。一方、MUくんは、私とお母さんが近づくと「怒られそう」という表情になりました。悪いことをしたということは、十分に分かっているのです。分かっているもそうせざるを得なかったのでしょう。お母さんが車を押さえ厳しい表情をすると、大きく抵抗しました。お母さんが、このような行動はやめさせたい気持ちもよく分かります。しかし、私は「使いたかったのね。使っていないんだよ」とMUくんに言いました。すると「使っていないの」と確かめるように言いながらうなずき、落ち着いて遊びだしました。まずは、MUくんがやりたいことが十分できて、心が満たされて欲しいなと願ったからです。

子どもも大人も、いつも我慢するばかりで、自分が満たされなかったら、相手の気持ちになって考える余裕はないものです。自分が十分満たされたとき「相手も使いたいんだろうな」と相手の立場で考えられるようになるのではないのでしょうか。そして人に優しくしてもらった経験が心に響くと、子どもは譲ったり、我慢したりできるようになります。この広場で、自分の欲求が満たされ、たくさんの優しさに触れ、満足した表情になってくれたらと願います。

他の子の遊びが刺激になって



Sちゃん（1歳9か月）は、この日初めて広場にきました。お母さんが傍にいてくれる安心感で、おもちゃを手に自分の遊びを始めました。そしてお母さんが学生と話している様子を見て、Sちゃんも学生とのやりとりが始まったようです。

一人一人の気持ち

そろそろ12時のサヨナラの時間になるな…という頃、以前は大きな声で全体に「そろそろ帰る時間だよ。遊んだものを片付けよう」と声を掛けていました。しかし、あちらこちらから「まだ遊んでいるのに」というような叫び声がかつても聞こえませんでした。当然です。子ども達が今夢中になっていることを途中で止めさせるこちらが悪いと反省しました。それからは、一人一人に声を掛けることにしました。「そろそろ帰る時間になるよ。今遊んでいるのが終わってからでいいからね。片付けようね」と。すると、どの子も「うん」と頷き、自分が納得したタイミングで片づけ始めるようになりました。私の言い方を変えた時から、子どもが抵抗する大きな声はほとんど聞こえなくなりました。周りの大人たちも、その子の様子を見守りながら、誰も使っていないおもちゃから片付けてくれます。周りが片付いてきて、絵本が始まる空気も子ども達は感じています。（勿論、ずっと遊んでいたい子は遊び続けています）

先日、ARくん（3歳7か月）は、絵本を読む頃になってもホワイトボードに丸を描いて遊んでいました。私はAくんの近くに言って「絵本始めるよ。見る？見るなら待っているよ」と聞いてみました。するとARくんは「待って！（見たいからまだ始めないで）」と言って私の腕をつかみました。そして、ペンの後ろについているスポンジで、ホワイトボードに描いたたくさんの丸を消し始めました。全て消すには時間が掛かりそうだったので、それよりは大きな黒板消しを見せて「こっちを使ったらどう？」と提案すると、それを使って一生

懸命消し始めました。そして、全て消し終わると納得して絵本の前に来ました。

Mくん（3歳）も、ARくんと同じようにホワイトボードの前にいました。Mくんにも同じように声を掛けると「見る！」と、絵本の方に来ました。すると、両手に粘土ベラを持ったまま絵本を見ようとしていたATくんのその粘土ベラを両方とも取ってしまいました。ATくんはMくんに向かって両手を重ねて「ちょうだい（返して）」のポーズをしました。しかし、Mくんは返してくれません。次に私からMくん「ATくんに返してあげて」と頼んでみましたが、やはり返してくれません。そこへYくん（1歳6か月）がトコトコと歩いてきて、別の粘土ベラを2つ、ATくんに渡してくれたのです。ATくんはそれを受け取って満足そうでした。Yくんもニコニコです。Mくんもニコニコです。全員満足！

いよいよ絵本が始められそうです。勿論、最初から絵本を見ようと集まっていた子ども達も、この一部始終を見ていました。そして、大事なことをしていることを感じて、ちゃんと待っていてくれました。

「みんなで一緒に活動をする」には、まだまだ早い年齢かもしれません。今は、一人一人の気持ちが大切にされることを1番にしてあげたい年齢です。

「さあ、それでは絵本を始めるよ」とすると今度は、私の膝にHくんが座りました。Mくんも座りたいと言います。そこで、「左膝はHくん、右膝はMくんはどう？」と聞くと、二人ともそれでいいと言いました。「ところで、そこから絵本見える？」絵本は、子ども達の丁度頭の上です。



パネルシアターでケーキを作って、お誕生日のお祝いしようという日もありました。お母さんから離れて、前に出てきてイチゴを貼れるようになった子。もう1つやりたいという意志を伝えに来てくれた子。貼るものがなくて悲しそうなお顔の子にクリームを一つ渡してあげる子もいました。



この日は、Nちゃんがみんなにチョコレート
をくれました。一人一人に渡してくれました。
人から頂く嬉しさ。人に「ありがとう」と言わ
れる嬉しさ。こんな体験も出来ました。

・・・毎回、こんなやりとりが繰り返される
平日の小さなさくらっこ。このやりとりを丁寧に丁寧に…と私は心に言い聞か
せています。子ども達には、自分の意志が大切にされていることを感じて欲しい。
そして、本人の気持ちがあくまで待てる大人でいたいと思います。

“小さな望み”に答えてあげる

生まれてから大人になるまで、子どもはいろんなことを親に要求しながら大きくなっていきます。その時々子どもが望むことに、できるだけ答えてあげるのが親の仕事です。子どもが望むことに親がきちんと答えてあげれば、子どもは決して「困った子」にはなりません。

子どもが小さい頃に望むことは、「抱っこ」とか、「お外へ行きたい」とか、「絵本読んで」とか、「みて、みて」というような、とても子どもらしい“小さな望み”です。小さな子どもは、親ができないようなことは絶対に要求してきません。親が今、その手ですぐできることばかりです。

子どもが大きくなると、そうはいきません。何万円もするゲーム機がほしいとか、オートバイを買ってくれとかいうことになれば、そう簡単に答えてあげるわけにはいきませんし、それに答えてあげることがいいかどうか、よく考えてみなければなりません。

それに比べて、小さい子どもの“小さな望み”には、すぐ答えてあげられますし、それにきちんと答えてあげれば、子どもは心が満たされて、その子本来の「よさ」を十分に発揮できるようになります。決して難しいことではありません。でも、なぜかその簡単なことをしてあげないで、子どもを「困った子」にしてしまうことが多いのです。

「あふれるまで愛を注ぐ 6歳までの子育て」本吉圓子 カンゼン より

<1月の予定>

8日(金)
12日(火)
15日(金)
19日(火)
22日(金)
26日(火)
29日(金)

<2月の予定>

2日(火) 休み
5日(金) 休み
9日(火) 休み
12日(金) 休み
16日(火)
19日(金) 休み
23日(火)
26日(金) 休み

親と子の広場のご案内

	小さな“さくらっこ”	“さくらっこ”
日時	火・金曜日 10:30 ~ 12:00	土曜日 10:00~12:30
場所	ミリアム館 1階保育室	ミリアム館 1階保育室
年齢	0歳~就園前	0歳~小学生
参加料	無料	500円(親子一組)(各回) 兄弟(3歳以上)はプラス300円
登録料 (保険料)	子ども一人当たり 300円(年1回) ※おうちの方と一緒に参加してください	
持ち物	特にありません ※日常、お出掛けの時に持参する飲み物や着替えなど、必要と思われるものを各自でご用意ください	
担当	桜の聖母短期大学 淋 光江 (土) 奥田美由紀 (火)(金) こども保育コース教員 ※こども保育コースの学生も勉強のため参加します。	

桜の聖母短期大学 福島市花園町 3-6 ☎ 024-534-7137 (代表)